

「第33回吉田秀和賞」贈呈式 ご取材のお願い

平成2年に創設されました吉田秀和賞は、優れた芸術評論を発表した人に対して賞を贈呈し、芸術文化を振興することを目的として当財団が運営しております。

第33回目となりました今回は、審査委員に片山杜秀氏と堀江敏幸氏を迎え、厳正に審査を行ない、藤原貞朗氏の『共和国の美術—フランス美術史編纂と保守/学芸員の時代—』（名古屋大学出版会 令和5年2月刊）を受賞作品として決定いたしました。つきましては、賞の贈呈式を下記のとおり開催いたします。

ご多用のところとは存じますが、ご取材いただけましたら幸いに存じます。

記

日時：令和5年11月11日(土)14時～15時（プレス受付：13時30分～）

会場：水戸芸術館 会議場

内容：表彰状の授与／講評／受賞者あいさつ ほか

受賞者：藤原貞朗（ふじはら・さだお）

肩書き：茨城大学人文社会科学部教授



「吉田秀和賞」について

- 対象 音楽・演劇・美術などの各分野で、優れた芸術評論を発表した人に対して
- 正賞 表彰状 ■副賞 賞金 200万円
- 審査委員 片山 杜秀（評論家・慶應義塾大学法学部教授）
堀江 敏幸（作家・早稲田大学文学学術院 文化構想学部教授）

〔著者略歴〕

藤原貞朗（ふじはら・さだお）

1967年、大阪府生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士課程退学。大阪大学大学院文学研究科助手を経て、現在、茨城大学人文社会科学部教授。

著書に『オリエンタリストの憂鬱』（めこん、2008年、渋沢・クロード賞本賞、サントリー学芸賞受賞）、『山下清と昭和の美術』（服部正との共著、名古屋大学出版会、2014年）、ダリオ・ガンボニー『潜在的イメージ』（訳、三元社、2007年）、タルディ『塹壕の戦争1914-1918』（訳、共和国、2016年）、タルディ／ヴェルネ『汚れた戦争1914-1918』（訳、共和国、2016年）等。



【お問合せ】

公益財団法人水戸市芸術振興財団 吉田秀和賞担当 川崎麻里子

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL 029-227-8111 FAX 029-227-8110

《取材申し込み》

FAX. 029-227-8110

【御社名】

【御芳名】

人数

名

【連絡先】 TEL.